

世界の舞台で夢をかなえる—国際的に活躍できるナース—

木村 みどり (東京女子医科大学看護学部)

最近「内向き日本人」と言われ、日本のグローバル化の遅れが批判され文科省も大学教育の国際化を強調している。東京女子医科大学看護学部では開学以来国際交流を活発に行い「グローバルな視点を持ち国際的に活躍できる看護師の育成」に力を注いできた。そのため、将来海外で働きたいと希望する学生が増えてきている。しかし、現実はどうなのか、その可能性を探る。

日本のみならず世界的にも看護師不足が叫ばれており、高度な看護スキルを有する日本人ナースはどここの国でも重宝がられ就職できる可能性がある。しかし、看護学生やナースの海外留学や就職を躊躇させる大きな障害がある。それは、語学力だ。人の命を預かる職業であるがゆえに、言葉によるミスコミュニケーションは致命傷になりかねない。そのため、下の表にあるように、どの国においても英語の試験か、英語による看護師資格試験に合格しなければナースとして働く事はできない。しかし、この言葉の壁を乗り越えた者には、世界の舞台で働く、という資格が与えられる。シンポジウムの中でも、涙ぐましい努力の末、資格を勝ち取った日本人女性の紹介をした。彼女たちは揃って「海外でナースとして働けるようになったのは、自分の描いた夢に向かって、ひたすら努力を続けたからだ」と言っている。このようにナースが世界で活躍できる可能性は大きい。

リベラルアーツは、人を自由にさせる学問である。そのリベラルアーツの一つである語学の習得によって、自分の望むナースとしてのキャリアを世界という舞台で自由に築き上げる事ができる。本学でも、ハワイ・パシフィック大学、アルバーノ大学、梨花女子大学との国際交流を通して、学生にグローバルな視点で看護をとらえることができるよう語学や国際経験をつむための支援を行っている。これからの世界を担っていく若者のために、語学の大切さを強調すると共に、「世界の舞台で夢をかなえたい」というビジョンに向かって努力した者には「夢はかなう」というエールを送りたい。看護師不足の日本から優秀な看護師が流出したとしても、彼らの活躍は巡りめぐって日本の看護界の向上に繋がると信じる。

| 国 | 看護師 資格試験 | 英語の 試験 | 臨床 経験 | 研修 義務 | 収入 日本との 比較 | 待遇 |
|-------------|-------------|-----------|----------|----------|------------------|----|
| アメリカ | 必要 | なし | 問わ ない | 特になし | ○ | 良い |
| カナダ | 必要 | 必要 | 必要 | 必要 | △ | 良い |
| イギリス | なし | 必要 | 必要 | 必要 | △ | 良い |
| オースト ラリア | なし | 必要 | 必要 | 必要 | △ | 良い |